

令和8年用りんご病害虫防除基準

- 農薬を使用する際は、農薬の使用基準を遵守し、適正に使用してください。
- 農薬の使用基準は、農薬容器のラベルに記載されています。使用に際しては、ラベルをよく読んで確認してください。
- この基準は、令和7年10月1日現在の農薬登録内容に基づき作成しています。登録内容に変更が生じた時は、変更された内容に準じて使用してください。

散時 布期	適用病害虫	薬剤名及び濃度 (水100ℓ当たり薬量)	収穫前 使用日数	総使用回数	散布量	注意事項 (収穫前使用日数、総使用回数)	防除履歴
黒葉初期(発芽10日後)	ハダニ類	1. 水 (99ℓ)				1. ハダニ、越冬病害虫防除のため、マシン油乳剤の散布は必ず実施する。越冬ハダニの発生が多い場合は休眠期にハーベストオイル50倍(芽出し直前直後、一)を散布する。 2. モモチョッキゾウムシの多い園では、マブリックEW(劇2,000倍(30日前まで、2回以内)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. ハーベストオイル 100倍 (1ℓ)	展葉期(発芽後2週間まで)	一	350ℓ		
		3. ベルクートフロアブル 2,000倍 (50mℓ)	前日まで	6回以内			
		4. トップジンM水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで	6回以内			
		5. アプロードフロアブル 1,000倍 (100mℓ)	30日前まで	2回以内			
星特別一	黒星病	1. ストライド顆粒水和剤 1,500倍 (66g)	開花前まで	2回以内	350ℓ	1. ストライド顆粒水和剤に替えて、ICボルドー412 30倍(一、一)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		1. トレノックスフロアブル 500倍 (200mℓ)	30日前まで	5回以内		1. 摘花剤としてエコルーキー100~150倍(満開日、追加散布を要する場合は2~3日後に1回、2回以内)を単用で使用できる。 2. シンクイムシ類の多い園地では、4月下旬にコンフューザーNを150~200本/10a設置する。(下記「交信かく乱剤」参照)	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. カナメフロアブル(劇) 4,000倍 (25mℓ)	前日まで	3回以内	400ℓ		
病落花直後	ハマキムシ類	3. サムコルフロアブル10 5,000倍 (20mℓ)	前日まで	3回以内			
		1. トレノックスフロアブル 500倍 (200mℓ)	30日前まで	5回以内		1. クレフノンに替えて、バイカルティ1,000倍を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. ミギワ20フロアブル 4,000倍 (25mℓ)	前日まで	3回以内			
		3. ウララDF 2,000倍 (50g)	14日前まで	2回以内			
		4. クレフノン 100倍 (1kg)					
点落花10日後	斑点落葉病	1. デランフロアブル(劇) 2,000倍 (50mℓ)	60日前まで	3回以内		1. キンモンホソガ発生園ではエクシレルSE 5,000倍(前日まで、3回以内)を加用する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. スコア顆粒水和剤 3,000倍 (33g)	14日前まで	3回以内			
		3. クレフノン 100倍 (1kg)					
除落花20日後	黒星病	1. ペンコゼブ水和剤 500倍 (200g)	30日前まで	3回以内		1. この時期、毛ぶるい期に入り、サビが最も出やすくなるので、乾きやすい時間帯に散布する。 2. クレフノンに替えて、バイカルティ1,000倍を使用してもよい。 3. リンゴワタムシの発生している園地ではトランスマッシュ水溶剤1,000倍(前日まで、3回以内)を散布する。 4. 斑点落葉病・赤衣病・褐斑病の多い品種では、ボリオキシンAL水和剤1,000倍(3日前まで、3回以内)を加用して散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. ダントツ水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで	3回以内	600ℓ		
		3. クレフノン 100倍 (1kg)					
6月10日頃	黒星病	1. デランフロアブル(劇) 2,000倍 (50mℓ)	60日前まで	3回以内		1. ヒメボクトウの発生が多い園では、6月上旬にボクトウコンーHを100~150本/10a設置する。なお、3年以上連続して使用することで効果が安定する。 2. 極早生品種のある園地ではデランフロアブルに替えて、トレノックスフロアブル500倍(30日前まで、5回以内)を散布してもよい。 3. デランフロアブルに替えて、パスポート顆粒水和剤1,000倍(45日前まで、3回以内)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. パレード15フロアブル 2,000倍 (50mℓ)	前日まで	2回以内	600ℓ		
		3. アグロスリン水和剤(劇) 1,000倍 (100g)	前日まで	2回以内			
		4. バイカルティ 1,000倍 (100g)					
6月20日頃	黒星病	1. アントラコール顆粒水和剤 500倍 (200g)	45日前まで	4回以内		1. 殺ダニ剤を使用する場合は、4日前までに草刈りを終了する。 2. ダニオーテフロアブルに替えて、カネマイツフロアブル1,000倍(7日前まで、1回)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ
		2. エクシレルSE 5,000倍 (20mℓ)	前日まで	3回以内	600ℓ		
		3. ダニオーテフロアブル 2,000倍 (50mℓ)	前日まで	1回			
		4. バイカルティ 1,000倍 (100g)					

耕種的防除

全般	1. 適切な肥培管理等により、樹勢を健全に保つ。 2. 園地の角など薬剤が到達しにくい部分や混み合っている部分の枝はせん除し、薬液が隅々まで到達しやすいようにする。 3. 病害虫は樹上の粗皮や芽の付近に越冬するものが多いので、効率防除を図るため、休眠期防除前に粗皮削りを行なう。
炭紋病	1. 園地周辺のニセアカシヤやクルミ等は、伝染源になるので除去する。 2. 樹勢が弱いと発生しやすいので、樹勢の維持に努める。 3. 休眠期にいぼ皮病斑を削り取り、削り取った病患部は適切に処理する。
黒星病	1. 発病した葉や果実は、見つけしだい摘み取り、適切に処分する。
ナシカイガムシ	1. 園地周辺の雑木は、寄種(伝染源)になるので除去する。

りんご施肥基準(成木: 10a 当り)

品種・目標収量	肥料名	施肥量(kg)	施肥時期	N	P	K
つがる (3,600kg)	フレッシュフルーツ有機80	60~80kg	9月下旬	3.6~4.8	1.8~2.4	1.2~1.6
ふじ (3,600kg)	フレッシュフルーツ有機80	40~80kg	10月上旬	2.4~4.8	1.2~2.4	0.8~1.6

●劇印は劇物です。購入の際は印章をご持参下さい。

発行：JAさがえ西村山・さがえ西村山りんご部会 大江りんご部

散布時期	適用病害虫	薬剤名及び濃度 (水100ℓ当たり薬量)	収穫前 使用日数	総使用回数	散布量	注意事項 (収穫前使用日数、総使用回数)	防除履歴																														
⑧ 7月上旬		1. 展着剤(アビオン-E) 1,000倍 (100mℓ)	—	—	600 ℓ	1. バイカルティはリン酸の含まれる葉面散布剤とは混用しない。 2. 斑点落葉病、褐斑病が多い園ではICボルドー412 30倍(ー、ー)を使用してもよい。ICボルドー412には展着剤は使用せず、単用で散布する。 3. シンクイムシの多い園では、7月上旬にナシヒメコン50本/10aを追加設置する。 4. ヒメボクトウの被害がみられる園では、7月上旬頃フェニックスフロアブル4,000倍(前日まで、2回以内)を枝幹部に十分かかるようていねいに散布する。また、ロビンフッド(前日まで、5回以内)を樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射する。	散布日 月 日 散布量 ℓ																														
	斑点落葉病 すす斑病 輪紋病 炭そ病	2. ナリアWDG 2,000倍 (50g)	前日まで	3回以内																																	
	キンモンホソガ ギンモンハモグリガ シンクイムシ類 アブラムシ類 リンゴワタムシ	3. ダントツ水溶剤 2,000倍 (50g)	前日まで	3回以内																																	
		4. バイカルティ 1,000倍 (100g)																																			
⑨ 7月中旬		1. 展着剤(アビオン-E) 1,000倍 (100mℓ)	—	—	600 ℓ	1. バイカルティはリン酸の含まれる葉面散布剤とは混用しない。 2. 斑点落葉病・輪紋病が多い園ではICボルドー412 30倍(ー、ー)を使用してもよい。ICボルドー412には展着剤は使用せず、単用で散布する。 3. 褐斑病防除のため防除間隔を10日以上空けない。	散布日 月 日 散布量 ℓ																														
	斑点落葉病 すす斑病 輪紋病 炭そ病	2. ドキリンフロアブル 800倍 (125mℓ)	14日前まで	4回以内																																	
	褐斑病	3. ユニックス顆粒水和剤47 2,000倍 (50g)	14日前まで	4回以内																																	
	シンクイムシ類 ハマキムシ類	4. オリオン水和剤40 1,000倍 (100g)	前日まで	2回以内																																	
		5. バイカルティ 1,000倍 (100g)																																			
品種ごとの収穫開始時期を考慮し、各薬剤の収穫前使用日数を厳守する。																																					
⑩ 7月下旬		1. 展着剤(アビオン-E) 1,000倍 (100mℓ)	—	—	600 ℓ	1. ビターピット対策として、ストピットII 500倍を加用してもよい。 2. カメムシ類対策としてモスピラン顆粒水溶剤に替えて、スタークル顆粒水溶剤2,000倍(前日まで、3回以内)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ																														
	斑点落葉病 すす斑病 輪紋病 炭そ病	2. オキシラン水和剤 700倍 (142g)	14日前まで	4回以内																																	
	キンモンホソガ ギンモンハモグリガ シンクイムシ類 アブラムシ類 リンゴワタムシ	3. モスピラン顆粒水溶剤(劇) 2,000倍 (50g)	前日まで	3回以内																																	
	褐斑病	4. オンリーワンフロアブル 2,000倍 (50mℓ)	7日前まで	3回以内																																	
特別一 別		1. 展着剤(アビオン-E) 1,000倍 (100mℓ)	—	—	600 ℓ	1. 降雨が続く場合は散布する。 高温・乾燥が続く場合、日やけ軽減・果点荒れ対策を目的にサンバリア1,000倍を加用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ																														
	斑点落葉病 すす斑病 輪紋病 褐炭斑病	2. ドキリンフロアブル 800倍 (125mℓ)	14日前まで	4回以内																																	
⑪ 8月上旬	斑点落葉病 すす斑病 輪紋病 炭そ病	1. ダイパワー水和剤 1,000倍 (100g)	前日まで	開花期以降 3回以内	600 ℓ	1. ハダニの発生が多い園では、下記の殺ダニ剤のいずれかを総使用回数に注意して単用で散布する。 <table border="1"><thead><tr><th>薬剤名</th><th>希釈倍率</th><th>収穫前 使用日数</th><th>総使用 回数</th><th>使用時期</th></tr><tr><th>マイコネフロアブル</th><td>1,000倍</td><td>前日まで</td><td>1回</td><td>○</td></tr></thead><tbody><tr><td>ダニコングフロアブル</td><td>2,000倍</td><td>前日まで</td><td>1回</td><td>○</td></tr><tr><td>ダニゲッターフロアブル</td><td>2,000倍</td><td>前日まで</td><td>1回</td><td>○</td></tr><tr><td>オマイト水和剤</td><td>750倍</td><td>3日前まで</td><td>1回</td><td>○</td></tr><tr><td></td><td>3,000倍</td><td>前日まで</td><td>—</td><td>○</td></tr></tbody></table> ※アカリタッチ乳剤は、殺卵効果がなく、残効性も期待できないので、5~7日間隔の連続2回散布や、他剤とのローテーションで使用する。	薬剤名	希釈倍率	収穫前 使用日数	総使用 回数	使用時期	マイコネフロアブル	1,000倍	前日まで	1回	○	ダニコングフロアブル	2,000倍	前日まで	1回	○	ダニゲッターフロアブル	2,000倍	前日まで	1回	○	オマイト水和剤	750倍	3日前まで	1回	○		3,000倍	前日まで	—	○	散布日 月 日 散布量 ℓ
薬剤名	希釈倍率	収穫前 使用日数	総使用 回数	使用時期																																	
マイコネフロアブル	1,000倍	前日まで	1回	○																																	
ダニコングフロアブル	2,000倍	前日まで	1回	○																																	
ダニゲッターフロアブル	2,000倍	前日まで	1回	○																																	
オマイト水和剤	750倍	3日前まで	1回	○																																	
	3,000倍	前日まで	—	○																																	
シンクイムシ類 ケムシ類	2. テッパン液剤 2,000倍 (50mℓ)	前日まで	2回以内																																		
ハダニ類	3. コロマイト乳剤 1,000倍 (100mℓ)	前日まで	1回																																		
⑫ 8月中旬	斑点落葉病 すす斑病 輪紋病 褐炭斑病	1. ナリアWDG 2,000倍 (50g)	前日まで	3回以内	600 ℓ	2. りんごの落果防止剤として、ヒオモン水溶剤を使用できる。	散布日 月 日 散布量 ℓ																														
	シンクイムシ類 キンモンホソガ	2. アグロスリン水和剤(劇) 1,000倍 (100g)	前日まで	2回以内																																	
⑬ 9月上旬	斑点落葉病 すす斑病 輪紋病 褐炭斑病	1. ベルクートフロアブル 1,000倍 (100mℓ)	前日まで	開花期以降 3回以内	600 ℓ	1. シンクイムシ類対策としてヨーバルフロアブル10,000倍(前日まで、2回以内)を加用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ																														
	キンモンホソガ シンクイムシ類	2. バリアード顆粒水和剤(劇) 2,000倍 (50g)	前日まで	3回以内																																	
⑭ 9月中旬	斑点落葉病 すす斑病 輪紋病 褐炭斑病	1. ファンタジスタ顆粒水和剤 3,000倍 (33g)	前日まで	3回以内	600 ℓ	1. ファンタジスタ顆粒水和剤に替えてプリントフロアブル25,2,000倍(前日まで、4回以内)を使用してもよい。	散布日 月 日 散布量 ℓ																														
	シンクイムシ類 カムシ類	2. スカウトフロアブル(劇) 2,000倍 (50mℓ)	前日まで	5回以内																																	
9月特 下別 旬	褐炭斑病 すす斑病 輪紋病 星点病	1. ストライド顆粒水和剤 1,500倍 (66g)	開花～前日まで	3回以内	600 ℓ	1. 高温時の散布は薬害の危険があるので、気温の低い時に散布する。	散布日 月 日 散布量 ℓ																														

落果防止剤の使用について

落果防止剤	使用時期	注意事項
ヒオモン水溶剤 2,000倍	収穫開始予定 2回以内	単用で散布する。

交信かく乱剤(シンクイムシ・ヒメボクトウ対策)

対象病害虫	薬剤名	使用方法
モシンクイガ ナシヒメシンクイ ハマキムシ類	コンフューザーN	4月下旬にコンフューザーNを150~200本/10a設置し、7月上旬にナシヒメコン50本/10aを追加設置する。
ナシヒメシンクイ	ナシヒメコン	
ヒメボクトウ	ボクトウコン-H	6月上旬に100~150本/10a設置する。なお、3年以上連続して使用することで効果が安定する。

1. 設置場所は、目通りの高さに8割、2割を上部に、園地内均一に設置する。
2. 傾斜上部の設置割合を1~2割多くする。
3. 園周辺の立木や、支柱などにも設置する。
4. 防風ネットなどを利用する。
5. 高温時は成分の揮発が早いので、必要に応じて追加設置する。